

令和3年度第1回沼津市環境審議会議事要旨

次第3 委員紹介

委員委嘱後1回目の会議のため、委員の自己紹介を行った。

(委嘱状交付は、新型コロナウイルス感染拡大による開催日延期に伴い、事前に郵送した。)

次第4 会長及び副会長選出

沼津市環境基本条例第23条第7項及び沼津市環境審議会規則第2条第1項の規定に基づき、会長に小南委員、副会長に平井委員を互選により選出した。

また、沼津市環境審議会規則第2条第4項の規定に基づき、会長が光林委員を職務代理者に指定した。

推薦理由

小南会長：前任期中もこの沼津市環境審議会の副会長や昨年度沼津市が策定した「第2次沼津市環境基本計画」の策定委員、そして、自然共生社会の検討部会長も務められていました。沼津市の環境施策に貢献、精通されていらっしゃることから、小南委員が会長に適任であると思います。

平井副会長：前任期中もこの沼津市環境審議会委員として、また、現行の「沼津市環境基本計画・一般廃棄物処理基本計画」の策定委員、循環型社会の検討部会長を務められていました。沼津市はごみの分別において「沼津方式」を確立するなど環境意識が高いと感じておりますし、廃棄物や資源循環の分野でぜひご協力いただきたいと思います。

次第5 議事

沼津市の環境に関する取組について

(1)生活環境部各課の業務概要について<資料1>

資料1について、4つの各課及び室の業務について、各所属長より説明した。

続いて、業務や施策に関する方針として、第2次沼津市環境基本計画及び沼津市一般廃棄物処理基本計画の概要について、事務局より説明した。

【委員からの質問等】

- ・環境教育の推進に関することは環境政策課環境企画係で、特定外来生物に関することは環境保全係が担当しているのか確認したい。(委員)
→外来生物の対応については、自然環境の部分と絡めて環境企画係が対応している。(市)
→バラバラに独立にしてではなく、お互いに内容的に絡むことがあるのでそれぞれの係が連携して取り組んでいると思っている。(委員)

(2)自然環境保全事業について<資料2>

資料2について、事務局より説明した。

【委員からの質問等】

- ・以前、千本浜で市民とか企業が集まって、ごみの収集イベントを行っていたが、なぜやめたのか。(委員)

→フェスタ・コスタ・デル・ゴミ in 千本浜のことだと思うが、数年前まで、狩野川流域市町が川上・川下の関係で、ごみが海に流れ着くという状況を知って、ポイ捨てとかを減らしていこうという周知・啓発イベントを実施していた。多くの企業にも参加していただき、数年間続けたことで、ある程度事業効果が見えたということで終了したと考えられる。今年度も海岸清掃について民間のボランティアと市の組織が協力して別のかたちで実施し、今後その発展性も見えてくると思う。そのやめた時の理由は不明で、ある程度事業効果が定着したからだと思うが、海洋プラスチックごみ問題にも繋がってくるので、継続してごみのポイ捨てについて、今後別の方法で取り組んでいきたいと思う。(市)

→市民、企業も千本浜をきれいにするというイベントで、続けてもらうことで意識づけになると思う。(委員)

- ・浮島ヶ原の生物多様性について、富士市と連携を図るということで、沼津市が上流となると思うが、どのような交流があるのか教えていただきたいと思う。(委員)

→浮島ヶ原は富士市と沼津市に跨る湿地帯で協力して行ければと思っている。現状、富士市と具体的には決まっていないが、今年度実施したような自然観察会を合同でやっていけないかというようなことを考えている。(市)

- ・コロナ禍において人を集めることは大変難しかったと思う。現状落ち着いてはいるが先が見えない状況で大々的にとはいかないと思うが、この一年を見越して、どのような方針で観察会や学習会を進めていくのか教えていただきたい。(委員)

→来年度も特定地域での生物分布調査を考えている。例えば、門池で今年度と同じように生物分布調査と自然観察会の実施や、今年度生物調査に併せて作製している浮島ヶ原の学習リーフレットを使用して、来年度子どもだけでなく市民を募集して自然観察会を実施することを見込んでいる。(市)

→比較的少人数、小規模のものを積み重ねていくという考えということで。(委員)

- ・県の生物多様性地域戦略の策定委員を三年位、現在は進捗管理の運営委員会委員をやっており、今回沼津市でも地域戦略を策定していただいた。県の委員会の議論でも外来種の色々な問題が多いと委員から出ていた。資料2右下でも「アカミミシシッピガメ」の写真が出ているが、資料2の【概要】で特定外来生物等の対応を行うと書いてあるが、具体的に沼津市として調査を行っていくとか、どういう施策を行うのか教えていただきたい。(委員)

→市民から見つけたとか捕まえたといった問合せがあった場合に個別対応をしている状況である。沼津市内の特定外来種だと、狩野川周辺でカミツキガメが確認されており、今年度も何件か連絡があり個別に対応していた。現時点では防除計画を立てておらず計画的な駆除は難しいので、個別に対応、また、情報収集に努めていきたいと思う。(市)

- ・自然環境保全事業は第2次沼津市環境基本計画のどの項目にそってやっているのか。第何章のどの項目で推進しているのか教えていただきたい。(委員)

→計画冊子 40 頁に記載の環境目標 4 の「自然や豊かな生態系が持続するまち」に基づいた事業であり、今年度浮島ヶ原で自然環境調査を行っており、その希少種が減らないというのが数値目標である。この数値目標に向けて、環境調査の実施や、市民全体、事業者の方、皆さん協力の下に希少種を保全していこうというものになっている。この環境目標 4 については、計画冊子 85 頁からの第 7 章「ぬまづ生物多様性地域戦略」の計画に基づく。今年度からの事業でありすぐに結果は出ないと思うが、ここから進めていきたいと考えている。(市)

→資料を提示する場合は環境基本計画の第何章なのか書いていただきたい。(委員)

→今後の参考とさせていただく。(市)

(3)沼津市版スマートシティ「X-Tech NUMAZU (クロステックヌマヅ)」について<資料3>

資料3について、事務局より説明した。

また、公式YouTube「NumazuTV」で公開中の「【ダイジェスト版】市長が語る『X-Tech NUMAZU』」を視聴した。

【委員からの質問等】

- ・これから始動するということであるが、直接私たちが生活で体験できるのはいつ頃になって、まずはどうかたちで体験できるのか伺いたい。(委員)

→市民の方の利便性を図っていくということで6つの重点分野を掲げている。今年度は「情報の一元化」と「モビリティ」、「環境・エネルギー」の三つの分野を進めている。

特に、皆さんにすぐ感じていただけるのはおそらく「情報の一元化」のところで、ICTを使って、なるべく市役所に来なくても手続きが進められるような皆さんの利便性を向上させていくような取組をしていくので、まずはその辺りが、か早い段階で皆さまのところで感じていただけたらと思う。(市)

→行政手続きが便利になるところから始まっていくということ。(委員)

→もう少し、環境とか、目で市内の様子、数値化したものとかが見せるのかなと少し期待していた。例えば、ごみの量が今日はどの位、車の通行量はどの位といったものが見えるようになってくるのかと思っていた。生活の利便性の方が主軸ということで。(委員)

→主に環境・エネルギー部会ということで説明が不足していたが、再生可能エネルギーの普及促進と、環境を大切に作る人づくりということを検討している中で、様々なデータを組み合わせた環境データの視覚化というところで検討している。日照時間等の環境情報を可視化していきながら皆さんに活用していただく方向であり、また、再生可能エネルギーの活用として充電設備の整備の部分などを検討している。環境教育というところで、株式会社明電舎と協力しながらVRを使って環境体験していただいて、どのような取組をしていけばよいのかを皆さんに気づいていただきたいと考えている。できる限り早く皆さまに提供できるように検討していきたいと考えている。(市)

- ・「情報の一元化」というところで、今、この動画を見てこんなことをやるということで、何ができるんだろう、何が始まるんだろうと市民の私たちがわくわくする気持ちがあった。商店街の中でとすると、駅から港までEVバスが出ているが、ICTを使った駅から港までの人の流れとか、安全性とかが公開されて出てくるといいなと思っている。通勤や出かける時は結構自転車に乗っているが、道路の歩道の所のラインとか、走っていると結構走りやすいので、色々な所に自転車で出かけている。これから駅の方も、車ではなく自転車に乗って人が行き交うまちになってくると思う。第一地区と第二地区の街中の小学校の統合はなくなったと聞いたが、街の中で教育関係も一緒に楽しく、安全性も確保できたらと思っていたので、ICTを使った安全な皆さんが住みやすいまちになっていくのかと思った。SNSとか、このような動画とか、沼津市は情報発信が上手だなと思った。(委員)

→今、ICTの関係、モビリティの関係、環境・エネルギー部門と三つの部門でやっているが、それぞれ単独でやっているのではなく、連携していく。市民に直結するというと防災という分野で、この六つの主要の中に入っている。「防災と環境・エネルギー」、「教育と防災」、「モビリティと防災」といったかたちで色々連携する。今後、このように横断的にクロステックヌマヅを考えて、市民の利便性向上に繋がっていくように努めていく。(市)

(4)共同利用型充電サービスの社会実装に向けた実証事業への参加について<資料4>

資料4について、スライドを用いて事務局より説明した。

【委員からの質問等】

- ・今回は日本郵便、郵便局ということだが、EVのバッテリーを使って特に防災などに役立
てるとするのは非常に有益な方法だと思う。EVを普及するということが重要になってく
ると思うので、充電をいくら、どういうふうに沼津市内としても整備していくかも計画、
そういったことも考えていく。急速充電だけでなく普通充電の両方あると思うので、案
としてでもあれば教えていただきたい。(委員)
→公共施設での急速充電器としては、市のふれあい駐車場にあった急速充電設備は老朽
化により昨年撤去した。くるら戸田にも充電設備はあるが、公共施設の充電金額はまだ
これからである。民間では、充電設備は徐々に普及している状況である。中心市街
地に行くと設置、充電する場所がないというところがあるので、充電の仕方、急速充
電器が大きい物をつけなくても良い技術開発も徐々にできているので、市も状況を見
ながら、公共施設も含めて普及していきたいと考えている。(市)
→使い方として、防災の時に避難所として携帯充電という話もあったが、防災の点で
これをどう活かしていくか、クロスセクタマツの防災の分野にも絡んでくる重要
なところだと思うので、ぜひ議論していただきたいと思う。(委員)
- ・国でもレジリエンス対応として、ローカルレジリエンス活用をやっていかなければなら
ない。何か災害等があった時にはこうした色々な施設がレジリエンス対応していくこと
が非常に重要である。一昨日トヨタがEV化にシフトすると、個人的には意外なほど早い
スピードでEV化するというので、ヨーロッパのEV化というのが想像以上にトヨタも
遅れをとってはいけない、後追いの気持ち、危機感なのかと。充電設備は市も撤去した
と説明があったが、当時補助金で設置したものがみんな今老朽化による撤去を始めてい
て、全国の充電設備は逆に減っていつている。EV化と言わせているにも拘らず、逆に充
電設備が減っているという、ねじれの現状が生じているような気がする。そういった中
で、EV化への充電設備の対応というのは相当な勢いでこれから求められる。国も政策で
進めていくと思うので、沼津市においても東京電力との関係も含めて、市内でどうい
う仕組みの中でEVのための充電設備の設置を具体化していくのか早いテンポで、否応なし
でやらなければならない状況になるかも知れないと感じる。お願いします。(委員)
→大切な意見だと思う。(委員)
→インフラ整備が必要になってくる。今回の急速充電は1時間の枠の中で30分と制限が
あり、フル充電、つまり0%から100%にはならない。今回の実証実験は、使い方、設
置場所がないという課題による共同で使用するというような仕組みで、これがどう行
政に影響があるのかというのは今回の実証実験を通して考えていきたいと思う。(市)

次第6 その他(事務局から)

民間企業による真城山周辺風力発電事業計画の概要について<報告資料>

資料に基づき、事務局より説明した。

【委員からの質問等 なし】